

令和元年度第1回桑名市上下水道事業経営審議会 議事要旨

日時・場所	令和元年11月19日(火)午後1時半～ 多度地区市民センター3階305会議室
出席者	委員：7名 事務局：12名 傍聴者：0名
議事次第	1. 開会挨拶(上下水道部長) 2. 議事 (1) 平成30年度上下水道事業決算の概要について (2) その他 3. 閉会挨拶
要旨	<p>1. 開会挨拶</p> <p>開会后、上下水道部長より挨拶</p> <p>2 (1) 平成30年度上下水道事業決算の概要について</p> <p>事務局より水道事業会計の決算について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管路経年化率が上昇しており、次年度以降も上昇し続けるのか。今後の計画に基づいて布設替工事を行った場合、どのように推移するのかシミュレーションを行い、方策を検討していただきたい。 ⇒老朽化がなるべく進まないように管路更新率1%を達成しており、次年度以降も布設替工事を行っていくが、新たに40年を経過することで老朽管となる延長が布設替の延長を上回ると思われる。計画に基づいた場合、管路経年化率がどのように推移するかを踏まえて事業を実施する。 ・管路経年化率の進行が以前から問題となっているが、桑名市としてどのような努力や取組を行っているのか。大規模な災害が起こった場合、被害は甚大となりコストはさらに大きくなる。 ⇒管路更新率が前年度と比較して平成30年度は大きく伸びており、類似団体と比較して高い水準で布設替工事を行い耐震化を進めているが、より効率的な発注方法を検討していく。 ・有収率が前年度より低下しているが、この数値をどのように捉えているか。布設替工事以外で有収率を上昇させる手立てや応急処置として、できることはないのか。 ⇒三重県下の他市と比較して低い水準となっている。布設替工事を進めているが年間1,000件程度の漏水が起こっており、規模により漏水量は増減するので有収率は前年度より低下しているが、管路の布設替を行うことで長期的には数値が上昇していくと考えている。漏水の予防対策として、漏水調査を年間約400km実施しており、平成30年度は30件程度漏水を発見し修繕を行っている。 ・経常収支比率、営業収支比率、流動比率が類似団体と比較して低い水準となっている要因は何か。収益を確保するのではなく費用を抑えることはできない

のか。

⇒類似団体と比較して経常収支比率より営業収支比率が大幅に低いということは、営業活動に伴う収支が安定していないことから、業務の包括的な契約による委託料の削減や動力費の契約内容の検討など全国の事例を踏まえて調査研究を行っている。

・将来的に料金改定を実施する場合は、費用削減の取り組みを十分踏まえたいうえで必要額を精査していただきたい。

事務局より下水道事業会計の決算について説明

・関東地方でゲリラ豪雨があり河川が氾濫しているが、桑名市の雨水ポンプ場はどの程度の排水能力があるのか。

⇒10年確率または8年確率で整備しており、時間61mmから66mm程度の雨量に耐えることができる施設を整備している。

・排水能力を超える想定外の雨量があった場合、どのように対処するのか。雨水浸水対策について市民ができる限り不安を感じないような取り組みを行っていただきたい。

⇒施設の更新については補助金を活用し、定期的な整備更新により能力を確保していく計画であるが、機能強化により排水能力を大きくすることは困難な状況となっている。ゲリラ豪雨の場合であっても、雨量の変動に合わせてポンプ場の効率的な機械操作を行うとともに、浸水を防ぐためのパトロールや調整池、集水枘の清掃等の日常的な点検を合わせて行うことで対処している。今後の浸水対策については、全国の事例を研究し対応を考えていきたい。

・下水道普及率は計画どおりに上昇しているのか。

⇒令和8年度に下水道普及率約90%となるように目標を設定して事業を進めている。下水道事業団へ委託している大規模工事第1期分が終了する令和元年度においては、大きく数値が上昇する見込みであるが、現時点では目標を少し下回る状況となっている。

・営業収支比率が100%未満であるが、今後の経営において問題ないのか。

⇒下水道事業は水道事業と比較すると数値は低い。三重県下の他市の数値と比較すると高い水準であり、どこの市町も苦勞している状況であるが、本市については70%台となっている。

(2) その他

事務局より、今後の審議会の予定について連絡

3. 閉会挨拶

上下水道部長より挨拶

(以上)